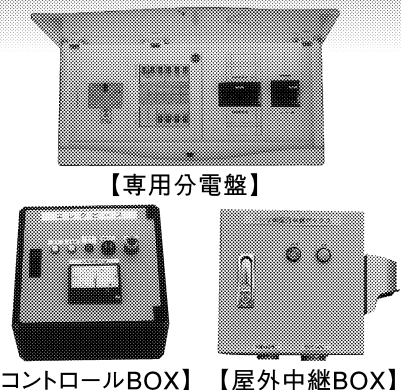


停電時電源切替システム

エレグピース

ソーラーシステム、インバーター発電機、EV、ハイブリッド車などの外部電源を安全に、簡単に屋内使用できます。

V2Hシステムとしても活用いただけます。



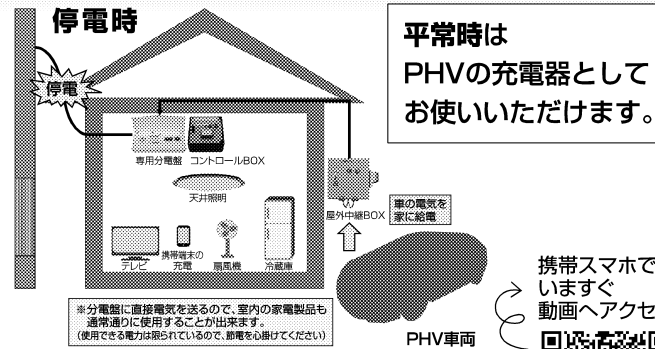
静岡県
磐田市、掛川市、
湖西市、川根町の
小中学校や幼稚園、
自治体施設、
全国の
企業や個人など
続々納入中！

【専用分電盤】

製造販売元 **AKAMATSU 株式会社 赤松電気**

〒438-0036 静岡県磐田市大立野450番地
☎0538-37-5233 FAX 0538-37-5243

URL <http://www.akamatsu-denki.com/> E-mail akamatsu-denki@onyx.dti.ne.jp



平常時は
PHVの充電器として
お使いいただけます。

携帯スマホで
いますぐ
動画へアクセス



EV・PHEVの充電をスマートに。
『ピット』で変わる、新しい充電のカタチ。

EV・PHEVの充電をスマートに。
『ピット』で変わる、新しい充電のカタチ。

EV・PHEVの充電をスマートに。
『ピット』で変わる、新しい充電のカタチ。

地域の気候風土、敷地の条件などを勘案し、太陽光や風といった自然の力を極力取り入れる「パッシブデザイン」は、冷暖房などの消費エネルギーを必要最小限に抑え、快適な住宅を築く。東日本大震災発生後のエネルギー問題において、効果を発揮すると期待される、パッシブデザインの概念、注目される点について、建築ジャーナリストの松浦隆幸氏に紹介してもらう。

そこにある環境を生かす

パッシブデザイン

軒・庇が「低炭素住宅」

日射熱をコントロール

建築ジャーナリスト
松浦 隆幸

住宅産業



後者のケースで最も現実的なのが、軒や庇の利用だろう。このところ、デザイン性や敷地の狭小化、コストダウンを理由に軒や庇を持たない住宅が目立つが、住まい手に

太陽や風、緑を利用

エネルギー消費効率化

パッシブデザインの本来は太陽や風、緑など、その場で得られる自然エネルギーを、極力そのまま利用して、室内環境を整える点にある。その意味では、今後、目を向けられるべきなのは、太陽熱や風、緑の利用だろう。さかのぼれば、1970年代以降、一部の建築家などが追求してきたパッシブデザイン住宅も、太陽熱集熱と自然通風、緑の利用に重きを置いてきた。建築環境学者も、「エネルギーの効率利用の観点から言えば、給湯には熱エネルギーを利用するのが適切で、電力の利用は、電気だけでなく、太陽光エネルギーによるパッシブデザインによる25棟の住宅地（野沢正光建築工房提供）

先日、認定低炭素建築物の技術的審査を手がける適合判定機関の担当者から興味深い話を聞いた。低炭素住宅の設計に、軒や庇が有効だというのである。なぜ今更、軒や庇なのか。理由は、低炭素住宅で求められる一次エネルギー消費量の計算に、冬の日射熱取得量が加味されることになった点にあるようだ。従来、開口部の窓ガラスは、できるだけ外部環境の影響を受けないように性能を上げ、室内の熱負荷を軽減してきた。ところが、冬の日射取得という外部環境を取り入れることの有効性が示されたことで、選択肢が出てきた。より性能の優れたガラスを使って外部環境をはね返していくのか。あるいは、一定の断熱性能を確保しつつ、冬の日射熱の取得を助長したガラスを選ぶのか。

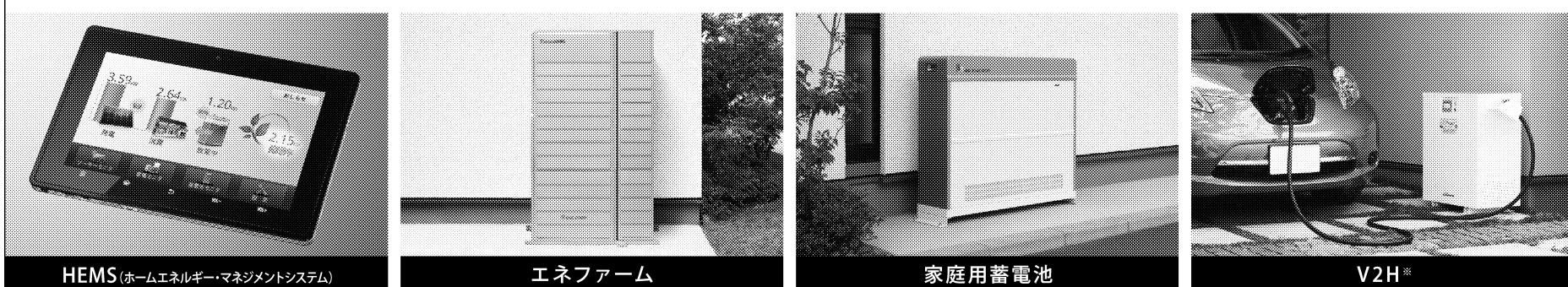
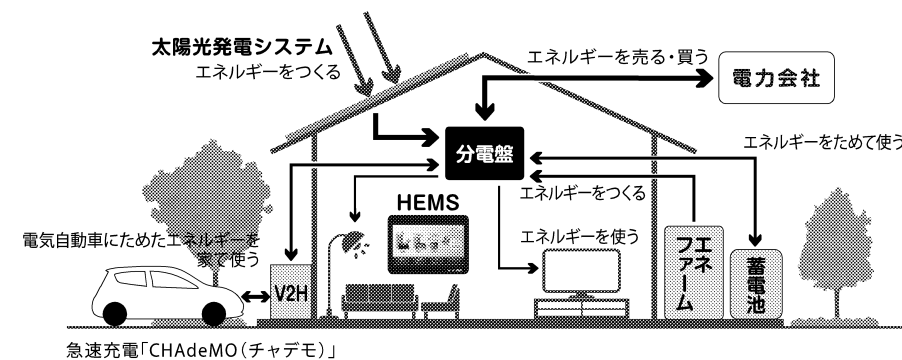
改めて言うまでもなく、軒や庇はパッシブデザインのごく基本的な要素だ。外付けブラインドも、原理的には簾や簾に近いものがあり、これも考え方としてはパッシブデザインと見ることになる。結果として、省エネルギー基準（次世代省エネ基準）の改正以降、にわかに進んだ高断熱高気密化のなかで、その場にある環境を生かすというパッシブデザインの意識が後退した印象は否めない。それが今、再びパッシブデザインが注目されるようになっている。背景には、太陽光発電の普及と、2011年の東日本大震災という二つの要因があるように映る。太陽光発電システムは、導入の動機こそ経済的メリットだったとしても、結果として自宅エネルギーを生み出せることを、楽しいと感じる家庭を増やした。さらに、東日本大震災の発生を機に、節エネにつながる家づくりや、自立循環型のエネルギー機器・システムを備えることへの関心も高まった。太陽光や太陽熱、自然の通風などを生かすパッシブデザインを理解し、受け入れる素地がようやく育ってきたと言える。

住宅業界の動きも活発化している。パッシブデザインを前面に打ち出すプロジェクトだ。ハウスメーカーや住宅会社が増えてきたほか、12年にはパッシブデザインの普及を目指すパッシブデザイン協議会も設立されている。同協議会の活動で興味深いものの一つに、「パッシブデザインアプリ」が挙げられる。建物の外皮性能や、自然エネルギーの利用などの評価項目をもとに、建物のパッシブデザイン度を評価し、設計や営業に活用してもらうという「iPad（アイパッド）専用のアプリケーション」だ。



「一歩先のスマートハウス」。 住友林業から。

自然の力を活かした設計で省エネを実現しながら、自宅でエネルギーをつくり、蓄え、賢く使う木の家「スマートソラボ」に、電気自動車に蓄えた電気を生活や停電時にも使える機能を新たにプラスしました。安心・安全や省エネルギーへの関心がますます高まる中、社会が求める再生可能エネルギーを活かし、家族の絆を守る住まいを。またひとつ、住友林業から未来へ向けた新しい家づくりの始まりです。



※ピークル・トゥ・ホーム：電気自動車やプラグインハイブリッド車に搭載された蓄電池のエネルギーを家庭用電力として利用すること。「ピークル」は「車両」の意味。日産リーフのみに対応（2013年6月現在）。

資料請求券
Smart Solabo
日刊工業新聞
13.7

資料をご希望の方は、右記のフリーダイヤル、ホームページからお申し込みになるか、ハガキまたはFAXに資料請求券を添付し、住所・氏名・年齢・電話番号・建築予定地をご記入の上、右記のあて先までお送りください。

☎0120-21-7555 Fax 03-3214-3571

受付時間9:30～17:00
(土・日・祝日も受け付けます。)

※お客さまからいただいた個人情報、注文住宅の建築請負等の当社住宅事業のご案内等に利用させていただきます。詳しくは当社ホームページ(<http://sfc.jp/ie>)をご参照ください。

詳しくは「ソラボ」で検索
sfc.jp/ie/lineup/solabo



携帯サイトは
こちらから

住友林業

住友林業株式会社 住宅事業本部
〒100-8270 東京都千代田区大手町1-3-2